

Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性(保育者：幼稚園教諭と保育士の総称)

内 容		評価
1、専門家としての能力・良識・義務		
[専門家としての能力]		
①	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている	B
②	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	B
③	保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている	B
④	保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している	A
[良識とマナー]		
①	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている	A
②	朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	A
③	園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	A
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	A
[義務]		
①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	A
②	締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	B
2、組織の一員としての在り方		
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	A
②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	A
③	当番や役割による仕事を理解し確実に行っている	A
④	上司の指示、命令には責任を持って実行している	A
3、まわりを感じ取れる感性・アンテナ		
①	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	A
②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	A

4、保育者としての資質や能力・良識・適性でよく出来ていると思ったこと	具体的な例
5、保育者としての資質や能力・良識・適性でこれからの課題と思ったこと	具体的な例

- A よくできている
- B まあまあできている
- C あまりできていない
- D まったくできていない